

十月十六日  
晴天  
於南京

一、南京ニ於テ宿營ス

一、午後三時ヨリ南京聯隊本部ノ位置ニ於テ我々歩兵第百五聯隊抗州  
灣上陸以來ノ戦斗ニ名譽ノ戦死ヲ遂ケラレタル故鬼森中佐以下九十  
四柱ノ慰靈祭ヲ執行セラル

日々 命令 十月十六日於南京

一、第一四師團經理部員

陸軍主計少尉 岡田由雄

右歩兵第百五聯隊配屬ヲ命ゼラル

依テ第三大隊附ヲ命ス

日々 命令 十月十六日午後五時於南京

一、第五中隊歩兵少尉 草間由男

右者本十六遺留並ニ遺品ノ師團司令部迄、率領ニ任ズヘシ

二、第一中隊歩兵伍長 下島扶

第四中隊歩兵上等兵 宮越清

第四中隊歩兵上等兵大宮 壽夫	第五中隊同 高橋 武夫	同 金井 美幸	第六中隊同 宮原 久雄	同 武田 正二郎	第七中隊同 有賀 高祐	第八中隊同 竹村 春美	右遺棄願者トシテ派遣ヲ命ス 依テ本日聯隊遺骨ト師團司令部ニ至リ同司令部ノ指揮者ノ 指示ヲ受ク可シ (上海迄、率領ス)	三、 第一中隊歩兵上等兵下 島 扶	第四中隊歩兵上等兵 宮 越 清	第五中隊歩兵上等兵 高橋 武夫	第六中隊同 宮原 久夫
----------------	-------------	---------	-------------	----------	-------------	-------------	--	-------------------	-----------------	-----------------	-------------

第七中隊目

有賀 武祐

第八中隊目

竹村 春美

右遺骨穿領トシテ引續キ内地港迄服務スヘシ

四入城式ニ関レ其ノ實施要領ノ外左ノ通リ心得ラヘシ

小編成要領

一、大隊長 歩兵 必佐 會田 重

二、第一大隊ヨリ百五十名ヲ以テ編成スルケ中隊

三、第一大隊ヨリ中隊長一、小隊長一、准尉一、曹長一、

分隊長八、(喇叭四ヲ含ム)

四、聯隊本部ヨリ十五名(下士官ニヲ含ム)

五、聯隊機関銃隊ヨリ小隊長一、外ニ兵三十四、(下士官三ヲ

含ム)

六、歩兵砲隊ヨリ小隊長一、外ニ兵十九、(下士官ニヲ含ム)

四、右要領ニ依リ編成スル部隊ハ正午迄ニ聯隊本部前ニ集

<p>合シ會田少佐ノ指揮ヲ以テ武場ニ至ル可シ第一大隊ヲ以テ編</p>	<p>成スル中隊ヨリ軍旗誘導將校、下士官ヲ差出ス可シ</p>	<p>軍旗ハ先頭ニ在リテ行進ス</p>	<p>五、慰靈祭ニ出場スル部隊ハ會田少佐ノ指揮ニテ第一大隊ノ一中隊ト</p>	<p>ス</p>	<p>六、 陸軍歩兵少佐 會田重</p>	<p>免 第一大隊長</p>	<p>命 第二大隊長</p>	<p>七、 陸軍歩兵少佐 増澤可也</p>	<p>第一大隊長代理ヲ命ス</p>	<p>八、 陸軍歩兵中尉 増子忠二</p>	<p>聯隊副官代理ヲ命ス</p>	<p>九、 陸軍歩兵少尉 池田四郎</p>	<p>第二機関銃中隊長代理ヲ命ス</p>
------------------------------------	--------------------------------	---------------------	--	----------	--------------------------	--------------------	--------------------	---------------------------	-------------------	---------------------------	------------------	---------------------------	----------------------

歩三旅作命第七〇号

歩兵百三十八旅團命令

十二月十六日午後五時五分  
於南京東車站

一、南京入城式及慰靈祭實施要領ニ其キ本職以下式參列シ

七、日式終了後旅團ニ追及セルトス

依テ旅團(同行部隊ヲ含ム)ハ歩兵百三十五聯隊第六隊長

西村歩兵少佐之ヲ指揮スベシ

ニ、式參列部隊ハ聯隊毎ニ集結スベシ

三、余ハ明十七日午前九時以後歩兵百三十五聯隊本部ニ在リ

副官一、傳令ニ、隨行スベシ

旅團長

奥少將

人馬現况

將校	下士官	兵	計	乘馬	鞍馬	馱馬	計
九	一二	一五六	一七九	一一	四五	四五	六三

0362

十二月七日  
 晴天  
 南京去  
 秣陵園  
 に至ル

轉入者	歩兵中尉	増子忠二
同	同 上等兵	村田喜平
同	特務兵	町田重登
轉出者	歩兵少佐	増澤可也
同	同 上等兵	藤森義國
同	時務兵	雨宮銳夫

一、午前九時三十分第一大隊長代理増澤少佐ハ聯隊長カヲ率ヒ  
 宜興ニ前進シ、南京城南門出祭先ノ秣陵園ニ向フ、  
 一、南京入城式代表部隊ハ軍旗ヲ捧リ聯隊長ノ指揮ヲ以テ  
 南京中山門國民政府道南側ニ至リ堵列ス  
 午後一時三十分ヨリ嚴肅ナル歴史的入城式ヲ舉行セラレ  
 松井方面軍司令官ニ對シ關兵ヲ行フ

0363

↑ ○ 朝香宮上海派遣軍司令官  
 ○ 柳川方面軍司令官

聯隊長、軍司令官、後方に隨行し國民政府武場へ臨みタリ

一、聯隊主力八午後五時三十分秣陵關に到着し、同地に着営ス

日々命令 十二月十日替午後六時四五分  
 於南京聯隊本部

一、陸軍歩兵中尉 勲七等 増子 忠二

任陸軍歩兵大尉 (十一月二日附)

舎營命令 十二月十七日午後六時四十五分  
 於南京聯隊本部

一、集成第四中隊司令部隊衛兵増加して、歩哨四名ヲ差出し歩兵第  
 百二十八旅團司令部、警戒ニ任スヘシ

入馬現況

將校	下士官	兵	計	乘馬	鞍馬	駄馬	計
九	一四	一五六	一七九	一二	四五	七	六三

十一月八日  
曇天  
秣陵閉ヲ  
去リテ漂水  
ニ至ル

一、聯隊主力ハ午前七時三十分秣陵閉ヲ至リテ漂水ニ向ヒ午後四時漂水ニ到着シ宿營ス

先向地ニ派遣セラレタル第六大隊主力ハ追駁中ノ隙ト合ス

一、午後二時ヨリ南京城ヲ明故宮南側飛行場ニ於テ方面軍戰没者ノ慰靈云々祭ヲ執行セラル、依而聯隊長以下代表部隊ハ之ニ参列ス

一、午後四時ヨリ第一百十四師團司令部ニ於テ師團ノ戰没將兵ノ遺骨還送ニ付キ回香アリ、聯隊長参拜ス

歩五〇作命第 号

步兵第百五十聯隊命令  
十一月十八日午後  
於南京城四東南部隊

一、入城式及慰靈祭参列部隊ハ第一四師作命甲第六四號別紙

行軍計画ニ基キ明十九日南京ヲ出發シ宜興ニ向ヒ前進セントス

二、各隊ハ左ノ行軍序列ニ依リ明十九日午前六時三十分迄ニ鐵道

線路踏切ヲ先頭ニ集合シ會田少佐ノ指揮ヲ以テ南京南



明ニ到リ第五梯團長千葉大佐ノ指揮ニ入ル可シ

聯隊本部

第八中隊

集成第七中隊

集成第四中隊

三旅團司令部護衛兵トシテ明十九日午前八時迄左ノ如ク旅團司令

部ニ差出シ旅團副官ノ指示ヲ受ク可シ

左記

聯隊本部ヨリ兵三名

集成第七中隊ヨリ下士官以下七名

四携帶口糧ハ師團行軍計画表備考第一ニ依ルヘシ

五予ハ集成時聯隊本部ノ位置ニアリ

聯隊長 山本中佐

下達法令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

本日ノ人馬現況

將校	下士官	兵	計	乘馬	馳馬	馱馬	計
九	一四	一五五	一七八	一一	四五	七	六三

入院者 特務兵 城下太郎 病名不明 南京野戰病院

五月十九日

曇天

深水ヲ去リ

蔣家ニ至ル

一 聯隊主力ハ午前七時三十分深水ヲ去リ蔣家ニ向テ午後五時蔣家ニ到着シ宿営ス

二 南京入城式尉靈祭参加部隊ハ午前七時南京南門ヨリ去リテ午後

三時秣陵関ヲ經テ宜興ニ向テ前進ス

午後四時三十分先ヨリ秣陵口鎮ニ到着シ宿営ス

一 聯隊旗手歩兵少尉小山長堯入院ノタメ五斯係歩兵少尉小澤

在ニ聯隊旗手ヲ命セラル

歩兵一五〇作命第 號

歩兵第百五十一聯隊命令

五月十九日午後七時 於 蔣家

一、敵情ハ畧ス

二、聯隊ハ本夜蔣家附近ニ舎営セントス

三、各隊ハ設営者ノ指示ニ依リ入舎スヘシ

四、露営日直將校 小林大尉

巡 察 將 校 中 條 少 尉

聯隊本部ノ直接警戒トシテ第七中隊ヨリ歩兵一ケ中隊ヲ聯隊本部

前ニ差出シ舎営日直將校ノ指示ヲ受クヘシ、

五、給兵ハ行李糧秣ニ依ルベシ

六、余ハ蔣家中央一軒家ニ在リ

聯 隊 長 山 本 中 佐

人 馬 現 況

將校	下士官	兵	計	乘馬	馱馬	馱馬	計
七	一四	一五四	一七五	三	四五	七	六四

入院者歩兵少尉 滝澤 壽 左 顔 面 敷 部 湖 州 野 戦 病 院 貫 通 統 帥

五月十日  
曇天  
蔣家ヲ去  
リテ潘家  
ニ至ル

入隊者 歩兵少尉 小山長堯 左前將部  
首貫銃創

入隊者 村添 歩兵上等兵 長 沼 忠 一

一、聯隊主力ハ午前七時三十分蔣家ヲ去リ午後五時潘家誤ニ到着シ

宿營ス

一、南京ノ城ヲ駐軍ヲ参加部隊ハ午前七時三十分豫口鎮ヲ去リテ

溧水西北方ニ轉リ舞崗附近村落ニ到達シ宿營ス

歩五〇作命第 一 號

歩兵第百五十聯隊命令 十二月十日午後七時  
於潘家誤

一、聯隊ハ潘家誤ニ露營セントス

二、各隊ハ設營者ノ指示ニ依リ露營スベシ

三、給與ハ大行李糧秣ニ依ルヘシ

四、明日出發シタメ各隊ハ左ノ行軍序列ヲ以テ午前七時四十分迄ニ下新橋

先頭トシテ途上縦隊ニ集合スベシ

9 Ⅸ Ⅲ Ⅱ Ⅰ Ⅰ TL Ⅰ A PM RIA 古 古 Ⅰ

五、余八午前七時四十分聯隊本部、先頭ニ在リ

聯隊 長 山 本 中 佐

步兵第百三十一旅團命令 第七四號

步兵第百三十一旅團命令 於 潘 家 溪  
上 用 日 午 後 五 時

一、敵情ニ付イマハ新報ヲ得ス

旅團(同行部隊共)ハ今夜鳳台ヨリ下新橋ニ至ル間ニ宿営シ明ニ

一日宣興ニ向テ前進セヨトス

ニ各隊ハ別シテ所依リ宿營スヘシ

ニ露营地區ハ旅團司令部步兵第百三十一聯隊騎兵小隊ハ下新橋ヨ

潘家溪ニ至ル間、步兵第百三十一聯隊及衛生隊(三分一)ハ鳳台大

下新橋ヨリ潘家溪ノ司令部ハ步兵第百三十一聯隊長山本中佐トス

四、各隊ハ明ニ日左ノ如ク集合シ宣興ニ向テ前進スヘシ

步兵第百三十一聯隊、一ヶ小隊

0370

騎兵小隊

旅團司令部(整備小隊ヲ含ム)

歩兵第百五十二聯隊ノ殘余

其順序ニ下新橋東端橋梁ヲ先頭ニ午前七時五十分集合

歩兵第百十五聯隊衛生隊ノ順序ニ歩兵第百五十二聯隊ノ直後

ヲ前進スヘシ

行李其ノ隊ト同時ニ道路ノ一側ニ集合シ行軍序列ニ依リ衛生

隊ノ後方ヲ前進スヘシ

各部隊毎ニ糧糶小隊ヲ附スヘシ

五、給養ハ深陽ニ於テ補給セラレタル糧秣ニ依ルヘシ

六、余ハ瀋家沢ニ在リ明ニ十七日午前七時五十分旅團司令部ノ

集合位置ニ在リ爾後同位置ニ在リテ前進ス

同時余ノモトニ命令受領者ヲ出ス可シ

人馬現況

0371

七	一四	一五四	一七五	一二	四五	七	六四
將校	下士官	兵	計	乘馬	騎馬	騾馬	計

二月五日  
曇天  
潘家梁ヲ  
去リテ  
宣興ニ至ル

一、聯隊主力ハ午前七時四十分潘家梁ヲ刻リテ宣興ニ向ヒ、午後四時宣興ニ到着會營ス

二、南京入城ニ對シテ靈臺祭参加部隊ハ溧水西南方ニ軒劉崗附近無名

部落ヲ去リテ午後五時三十分南渡鎮ニ到達シ宿營ス

三、金山衛守備部隊タリシ第ニ中隊帰還ス

歩兵一五〇作命第 號

歩兵第百五十聯隊命令 二月二十一日午後五時

一、聯隊ハ旅團命令ニ依リ宣興城以ニ會營セントス

二、各隊ハ故營者ノ指ニ依リ入營スヘシ

三、勤務員存如シ

會營日直將校 大塚 少佐

日直將校 中村 少尉

四合營衛兵トシテ第四中隊ヨリ歩兵一小隊喇ハ一ヲ聯隊本部前ニ

差出シ合營日直將校ノ指示ヲ受クベシ

五、第五中隊ハ旅團ノ直接警戒ニ任ス可シ

六、給兵ハ大行李糧秣ニ依ルベシ

七、余ハ城以北門内ニ在リ

聯隊長 山本 中佐

合營命令 於三月十日午後四時三十分

一、合營勤務員左ノ如シ

ハ、合營日直將校 歩一五〇大塚 少佐

二、巡察將校 (歩兵第百五十聯隊、歩兵第百十五聯隊ヨリ

各ハ中尉一名)

ニ、歩兵四聯隊ヨリ合營衛兵ヲ差出シ合營日直將校ノ指示ヲ受

ク可シ兵クハ將校ノ指揮スル一小隊(喇ハ一ヲ合ハ)



三、舎営日直將校ハ舎営地内ノ警戒備ニ関シ宣興警戒備隊ト協定  
 シ舎営衛兵ヲシテ警戒任セム可シ  
 四、各隊ハ火災予防ニ関シ嚴ニ注意スベシ  
 五、余ハ城内北門東南方二百米ニ在リ  
 舎営司令官 山 本 中 佐  
 歩兵第百二十八旅團命令要旨 一、二、三、四、五、  
 一、各隊ハ今夜ヨリ別ニ示ス處ニ依リ宣興ニ宿営スベシ  
 舎営司令官ハ歩兵第百五十一聯隊長山本中佐トス  
 二、給與及宣興糧秣交付所ヨリ受クルモノニ依ルベシ  
 第五梯團命令要旨 一、二、三、  
 一、第五梯團ハ今夜南渡鎮及草家橋、大平港、湖濱橋間  
 二、宿営セントス  
 三、各隊ハ現地於テ示セル地域ニ設営者ノ指示ニ依リ宿営スベシ  
 三、各隊毎ニ一露营地トス

0374

<p>四、警戒に關シテハ各露營地區ニ實施スルノ外特ニ左記ニ依ルヘシ</p> <p>1、<sup>102</sup>南方ニ對シ</p> <p>2、<sup>150</sup>東方ニ對シ</p> <p>3、<sup>66</sup>北方ニ對シ</p> <p>4、<sup>150</sup>西方ニ對シ</p> <p>五、梯團本夜、給與ハ携帶口糧ニ依リ其ノ補充ハ漂陽ニ於テ輜重ヲ却下セル糧秣ニ依ル可シ</p> <p>六、明日日出發ニ際シテハ次々心得ヲ得フベシ</p> <p>午前七時三十分首營南端ヲ先頭ニ</p> <p><sup>102</sup> <sup>115</sup> <sup>150</sup> <sup>66</sup> <sup>120</sup> FLノ順序ニ出發スベシ</p> <p>七、該當者ハ午前六時迄ニ<sup>102</sup>首營地南端ニ差出シ<sup>150</sup>ヨリ出入ル</p> <p>將校ノ指揮ヲ受ク可シ</p> <p>八、明日日糧秣受領ノタメ所要ノ人員ヲ該營者ト同行セムヘシ</p>						
人馬現況						
將校	下士官	兵	計	乘馬	駟馬	馱馬
七	一四	一五四	一七五	一三	四五	七
				計		
				六四		

所見、

一、戦斗後於此行軍ハ一般ノ志氣弛緩シ易シ各隊長ノ留意ヲ要ス  
幸ニ当聯隊ハ師團長ヨリ行軍々紀最良好ナリト賞詞ヲ授ヘラル  
二、梯團毎行軍ハ長途ノ道路ノ景況ヲ考ヘ出發到着時間ヲ指定スル外  
各梯團間ニ相当ノ巨離ヲ存シ各部隊ハ行本及落後者等ノ行動  
ヲ規整シ幹部ノ監視ヲ嚴ニスルヲ要ス

十五日  
曇天  
於豊興

一、聯隊主力ハ豊興城内ニ於テ宿営ス  
二、南京入城式慰霊祭参加部隊ハ午前七時南渡鎮ヲ去リテ徐舎  
鎮ニ向ヒ午後五時三十分徐舎鎮ニ到着シ宿営ス

日々命令  
十一月二十一日  
茶軍興

一、本庄日午後一時馬車ヲ診断ヨリ行キ  
依而受診馬ハ同時迄ニ聯隊本部東側廣場(小學校)ニ集  
合スベシ

10  
0376

尚装飾ニ関シテハ右刻示ス

二 爾今定期會報ハ毎日午前十時トス

尚會報事項アル時ハ前日午前九時迄ニ聯隊副官ノモトニ事

項ヲ記載シ提出スヘシ

但レ事急ナルハ此ノ限リニアラス

三 各隊給與係ハ午後一時ヲ以テ第一大隊本部ニ集合スヘシ

四 兵器ニ関シテ、

一 各大隊本部、各中隊、歩兵砲、聯隊砲、聯隊機關銃隊

ノ各隊定數兵器ニ對スル不足兵器員數表ヲ二十四日後

<sup>五時</sup>迄ニ聯隊兵器係ニ提出スル事、(不足兵器ニ對シテハ不足程

由附記スルコト

二 右各隊ハ個人携帶彈數ヲ百二十發ノ外携行セシメ其他

ハ小行李ニ積載シ行李長ハ積載彈藥數ヲ調査報告スヘシ

三 細部ニ付テ注意スヘキ事項アルニ付キ午後一時迄ニ兵器係下士

0377

官ハ櫻井准尉、モトニ集合スヘシ、

歩兵第百十八旅團命令要旨

於一三、三三、右六、三〇

一、舎營司令官ハ左記場所ニ所要ノ警備戒兵ヲ派遣シ前宣興警備

中隊ヨリ出シテ了ル警備戒兵ト速カニ交對セシムヘシ

左記、

一、宣興北門及西門、晝間ハ約十名ノ兵力

夜ハ輕機関銃分隊ニ増加

二、糧秣集積所、

一ヶ小隊ノ兵力

(歩兵第百十五聯隊ト交對勤務カ)

三、第百十四師團糧秣集積所

歩兵第百五聯隊第二中隊ヨリ十名

現宣興警備中隊ハ明ニ三日早朝出發、現所屬隊ニ復歸ノ旨

第五梯團命令要旨

於一三、三三、右五、四五

一、第五梯團ハ本ニ二日夜除舎陳及田家圩間ニ宿營セントス

<p>二、各隊ハ設営者ノ區署ニ依リ村落露営ヲスヘシ</p>	<p>三、本ニテ日夜ニ於ケル警戒ハ各宿營地區ニ毎ニ之ヲ實施シ</p>	<p>特ニ左ノ地區ニ對シ警戒スヘシ</p>	<p>15% 東方</p>	<p>66% 南方</p>	<p>四、本ニテ日給養ハ深陽ニ於テ受領シタル糧秣ニ依ルヘシ</p>	<p>明ニテ日豈興軍倉庫ニ於テ其ノ補充ヲ受テヘシ</p>	<p>五、明ニテ日出齊ニ関レ左ノ通りトス</p>	<p>ハ、歩兵隊ノ先頭ヲ以テ除舎鎮康側橋梁ヨリ東北方五百米ヲ先頭</p>	<p>トシ右ノ順序ニ午前八時出齊シ得ル如ク東面ノ道上縱隊ニ</p>	<p>集合スヘシ</p>	<p>102% 15% 66% 115% A B C 大行李 第三 FI</p>	<p>騎兵ハ歩兵第百ニ聯隊ヲ前方ヲ前進スヘシ</p>	<p>二、設営者及糧秣受領ノ者ハ本ニテ日同様明ニテ三日前六</p>
-------------------------------	------------------------------------	-----------------------	---------------	---------------	-----------------------------------	------------------------------	--------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------	--------------	--	----------------------------	-----------------------------------

正月三日  
曇天  
於宣興

時除舎鎮東側橋梁ニ集合シ場中尉ヲ指揮ヲ受ケベシ

但シ此ノ除ケリ

人馬現況

料校	下士官	兵	計	乘馬	驍馬	駄馬	計
七	一四	一五四	一七五	一二	四五	七	六四

一、聯隊主力ハ宣興城内ニ於テ宿営ス

二、南京入城式慰靈祭ニ参加部隊ハ午前八時除舎ヲ去リテ宣興ニ向ヒ

午前十一時三十分宣興ニ到達シ聯隊主力ト合ヒテ宿営ス

歩五〇作命第 號

歩兵第百五十聯隊命令 於宣興 正月三日

一、 巡察將校 三 澤 少 尉

二、 第四中隊ヨリ明テ四日午前九時迄ニ歩兵一分隊ヲ聯隊本部前ニ差

出シ大田草曹ヲ指示ヲ受ケヘシ

三第百十四師團糧秣警備八歩兵第百十五聯隊ニ於テ担任スヘシ

其ノ服務ニ関シテハ歩兵第百十五聯隊ニ於テ區署スヘシ

四第十四師團糧秣集積所警備ノ爲歩兵第百十五聯隊第百二十中隊ヨリ

歩兵第百十五聯隊ヲ出シ担任スヘシ

其ノ交對服務ニ関シテハ歩兵第百十五聯隊第百二十中隊長ニ於テ區署

スヘシ

舎營司令官 山 本 中 佐

人馬現況

將校	下士官	兵	計	兼馬	輕馬	駄馬	計
七	六四	一五三	一七四	一二	四五	七	六四

入院者 特務兵 熊谷 正男 風邪ノタメ宜興野戦病院入院

六宜興城内ニ於テ宿營ス

歩兵第百十五作命第 號

十月三日  
曇天  
於直快



歩兵第百五十聯隊命令 於 宣興

一 聯隊本部ノ兵カヲ 漂陽ニ派遣シ 同地ニ在ル 彈藥集積所ノ 警備ニ任

セントス

ニ 第八中隊笠原少尉ハ 兵力約二千名ヲ 指揮シ 速ニ 漂陽ニ至リ 同地 彈

藥集積所ノ 警備ニ任スヘシ、

貨物自動車ヲ 利用シ 糧秣三日分ヲ 携行スヘシ

細部ハ 別ニ示ス

三 余ハ 宣興ニ在リ  
聯隊長 山本 中佐

下 遺法要旨ノ 口達ニ 後 命令受領者ヲ 集メ 口達筆記セシム

歩五ノ 作命 號

歩兵第百五十聯隊命令 於 宣興

一 師團ハ 長興一 宣興間ニ 兵カヲ 集結シ 爾後ノ 行動ヲ 準備ス

旅團(在 宣興部隊共)ハ 依然 現五地ニ 在リテ 附近 主要各地ノ 治安



ヲ實施スベシ

1. 開始午前九時半、終了午後三時、予定

2. 担任區域(十万分一地圖参照)

第一天隊 以

宣興城内東西ニ通スル北部道路以北、城内地區

第二天隊

宣興城内東西ニ通スル北部道路、南部道路(含)ノ中

間、城内地區

第三天隊

RIA RMF

宣興城内東西ニ通スル南部道路以南、城内地區

ハ使用兵力

各隊毎、最小限度ノ兵力ヲ宿營地ニ残置シ各中隊隊

數名ニ小隊 以上トス

々實施要領

0384

大隊長ニ於テ統一シ城內東側ヨリ西側ニ向ヒ各大隊同時ニ開  
始シ特ニ隣接部隊ト運搬シテ實施スルモノトス

5. 細部事項協定ノタメ大隊長ハ午五日前八時三十分聯隊本部  
ニ集合スヘシ

6. 隱匿兵器軍需資材等ハ別ニ示ス場所ニ集積シ機井準備  
ニ引渡スモノトス各大隊ハ實施ノ結果ヲ同時午後四時迄ニ報告  
スベシ

3. 各隊ハ別紙要領(追テ配布)ニ基キ部隊現勢ヲ一月廿日現在調ラ

以テ同月十四日ヲ以テ報告スヘシ

裝備資材、典範令、戰時諸條項、教育訓練、戰鬥法等ニ関スル  
意見ヲ收蒐シ逐次報告スヘシ (三通)

聯隊長 山本 中 佐

歩一五作命第 號

歩兵第百五十聯隊命令 於 宣 梁  
十一月二十四日 正午

<p>一、杭州攻撃兵團ハ同地ニ迫進之ヲ攻撃中ニシテ其ノ占領進キアリ          二、岡崎支隊ハ南京ニ待機シ其ノ警備區域ハ第一後備歩兵團之担任          入</p>	<p>師團ハ宣興、長興間ニ數日間駐留ス</p>	<p>旅團ハ在宣興縣敵共ニ師團命令別紙箱營區分表(別紙送而          配布)ニ基キ箱營ニ該地域以ノ警備ニ任セントス</p>	<p>ニ各隊ハ依然現在箱營地域以ノ警備ニ任スベシ          四、余ハ宣興ニ在リ</p>	<p>聯隊長 山本中佐</p>	<p>日々命令</p>	<p>一月五日上海ヨリ合營勤務員並ニ精兵ヲ在厚如ノ服務セシムル          月日 巡察科 合衛兵          一、二、二五 Ⅱ          一、二、二六 Ⅱ          一、二、二七 Ⅱ</p>
--	-------------------------	---	---	-----------------	-------------	---

0386

日々命令

於正午

一長興彌丸員受領ノタメ各隊ハ左記人員ヲ明ニ五日迄ニ聯隊本部前差出シ金井少尉ノ指示ヲ受クベシ

細部ハ別ニ示ス

聯隊本部

下士官 一

各大隊ヨリ

将校(准尉)一、下士官 一

IA

ヨリ

下士官 一

RMG

ヨリ

下士官 一

各大隊ヨリ

護衛兵 三名宛

服装ハ軍装

(整装)ニシテ晝食携行トス

ニ糯米携キ援助ノタメ明ニ五日午前八時迄ニ第三大隊ヨリ下士官

以下十名(未携キニ経験足モノヲ選定)ヲ五箇隊、師團糧秣

交付所ニ出シ同所主計少尉ノ指示ヲ受クベシ

服装ハ軍装(背嚢ヲ除ク)ニシテ飲食携行晝食ハ同所ニ於テ支

給大	步兵第五十聯隊命令	青野 於造 興
第六中隊付	步兵曹長	倉持 祐助
聯隊本部附	同	秋山 貞司
第一機關銃中隊付	同	世利 辰之助
第七中隊付	同	大田 政治
步兵隊本部附	同	細川 次男
步兵隊本部附	步兵伍長	森村 江喜三
第七中隊付	同	武井 平吉
右頭書本部中銃隊付命令	步兵少尉	金井 宗助
聯隊本部勤務命令		
第一中隊長	步兵中尉	関 将 市
聯隊旗手	步兵少尉	小澤 庄 三

0388

聯隊副官(左)歩兵少尉金井宗助  
右頭書代理の命

四第十中隊附 歩兵伍長 木内巳喜雄

原所屬中隊ニ復歸ヲ命ス

五聯隊本部 歩兵軍曹 永井 甚

右者頭書 副分任官ヲ命ス

歩兵第五十八旅團命令要旨 於三月四日正午

一、歩兵第五十聯隊ヨリ特校ノ指揮スル兵約二十名ヲ速ニ

陽冰運上同地ニ五、彈藥集積所ノ警備ニ任セムヘシ

同隊ニ在リ徵發貨物自動車ヲ利用スヘシ

旅團命令要旨 於三月四日午後二時

下中方面ハ蕪湖、宿國、杭州ノ線以東、揚子江右岸地

區内主要各地ノ安定確保ニ任レ、且ツ軍隊ノ整理戰

力充量ヲ計ル期作戰準備スルト共ニ航空部隊ヲ



以テ依然敵國內ノ要地ヲ攻撃シテ續行ス  
 丁集團ト上海派遣軍トノ作戰地境ハ黃浦江―北新壘下流ノ  
 蘇州河―北新壘青浦北端―吳江―和橋鎮―黃金山―大  
 路亭(漂水西北約八杆)―江寧鎮下流水流ヲ連ネル線トレ線  
 上(黃浦江ヲ除ク)ハ派遣軍ニ屬ス  
 第十八師團ハ下泗安廣德方向ヨリ第一百師團ハ湖州方向ヨリ第  
 一後備步兵團ハ嘉興方向ヨリ共ニ杭州ヲ攻撃ス  
 第六師團ハ主力ヲ以テ蕪湖ニ位置シ江寧鎮(含ム)―蕪湖―江  
 寧鎮―灣沚鎮(含ム)―甯國―十字浦(含ム)道ニ添テ地區ヲ  
 又第一後備步兵團ハ主力ヲ以テ廣德ニ位置シ十字浦(含ム)―廣  
 德―湖州道ニ添テ地區ヲ共ニ警備ス  
 師團ハ長興―宣興間ニ兵力ヲ集結シ爾後ノ行動ヲ準備ス  
 第一及至第四梯團ハ其ノ梯團長ノ指揮ヲ以テ第一四師  
 作命甲第六四號ニ示ス最後ノ宿營地ニ宿營ス

第五旅團ハ到着後逐次其ノ主力ニ復歸ス

ニ旅團(在宣興部隊共)ハ依然現在地ニ在リ附近主要各地

安定確保ニ任シ且ツ軍隊ノ整理、戦力ノ充實ヲ図リ爾後、

行動ヲ準備セトス

ニ各部隊ハ依然現在地ニ宿営地ニ爾後ノ行動ヲ準備スニ

四各部隊ハ本月四日中ニ長興ニ於テ其ノ補充員ヲ受領スヘシ

細部ニ就テハ別ニ示ス

五給養ハ倉庫ノ糧秣ニ依ルヘシ

歩兵百二十八旅團命令追加要旨 十月十四日 於宣興

一各部隊別紙要領ニ基キ部隊現勢ヲ一月十二日現在調ヲ

以テ十月十四日スレニ旅團司令部ニ到着スル如ク當時ノ

軍隊區分ニ基テ順序ヲ経テ各々六通ヲ調製報告スヘシ

ニ歩兵第五十五聯隊ハ宣興城外北部(其宿営地近)ニ集

第百五十聯隊八回シテ城内ニ於テ明三十五日左記事項ヲ實施ス

（シ）

一 敗残兵ノ掃蕩

二 隱匿兵器及軍需資材ノ収集

三 戰場掃除

四 破壊交通網ノ恢復

明三十五日午後六時迄ニ石叢施ノ結果ト共ニ住民ノ情況ヲ併セ

報告ス（シ）

三 各部隊ノ實戰ノ經驗ニ基ク編成、動員裝備資材、典範  
令戰事諸條項、教育訓練、戰鬥法等ニ関スル意見ヲ蒐集

シ逐次報告ス（シ）（ニ通提出）

歩兵第百三十八旅團命令要旨 於 二四台七、四〇

一 杭州攻撃兵團八回地ニ近迫、之ヲ攻撃中ニシテ其ノ占領地ニ  
了、固崎支隊八南京ニ待機シテ被命其警備區域ハ第

ニ後備歩兵團之ヲ担任ス

師團八直興一長興間ニ教日間駐留ス

野戰重砲兵隊ハ湖州ニ至リ集團ノ直轄トナル

ニ旅團(在直興部隊共)ハ師團命令別紙宿営區分表

ニ基テ宿営且該地區内ノ警備ニ任スヘシ

ニ各部隊ハ依然現在地ニ宿営シ且該地區内ノ警備ニ任スヘシ

人馬現況

將校

下士官

兵

計

乘馬

騾馬

馱馬

計

七

二三

一五三

一七二

一ニ

四五

七

六四

入院者

歩兵上等兵

平島太一

急性氣管支炎

轉入者

歩兵少尉

金井宗助

同

歩兵曹長

甘利辰之助

同

歩兵上等兵

藤澤真喜太

同

同

田中憲代志

同	步兵一等兵	根橋優廣
轉出者	步兵中尉	關將市
同	步兵中尉	太田政治
同	步兵伍長	木内巳喜雄
同	同	武尾平吉
同	歩兵上等兵	藤森衆衆太
同	同	花岡賢太郎
舎営命令	一、二、三、五、前、於、魚、興	
一、山本部隊本部ハ其ノ宿営地ヲ十二月二十五日午後以後區興城内元直 興警備隊跡ニ移轉セリ		
舎営司令官 山本 中佐		
本日ノ人馬現況		
將校	下士官	計
七	一三	一五四
	矢	計
	一七	二
	馬	計
	四	五
	馬	計
	七	六
		四

0394

19

十一月三日  
晴  
於宣興

一、宣興城に於て宿營ス

令營命令

一、二、六、正午於宣興

一、令營日直將校トシテ左如ク服務スベシ

上番日次

差出部隊

十二月二十六日

歩一五〇

二十七日

歩一五〇

二十八年

歩一五〇

二十九日

歩一五〇

三十日

歩一五〇

三十一日

歩一五〇

差出部隊ハ服務日、前日其ノ官氏名ヲ報告スルモノトス

二、宣興駐留間宿營部隊ノ日課時限ヲ左ノ通リ定ム

起床(日朝点呼) 午前七時三十分

日夕点呼 午後八時三十分

其他ノ日課時限ハ各隊ニ於テ適宜定ムルモノトス

0395

日々命令

於三月二十六日午後一時

一、真興駐留間、日課時限ヲ舍營命令ニ依リ左ノ通り定ム

左記

朝食	午前八時三分
診断	同一〇〇〇〇
晝食	正午
會報	午後二〇〇〇
夕食	同一五〇〇〇

二、第機関銃隊陸軍歩兵上等兵 小林 繁 張 五 郎

右者當分間隊本部ニ服務セシムヘシ

三、陸軍砲兵准尉 櫻井 米 治

師團兵器會報参列ノタメ三月二十七日長興師團司令部兵器部ニ

出張ヲ命ス

依テ同日正午ニ到着スヘシ。細部ハ別ニ指示ス

0396

四月二十八日以降舍營勤務員及衛兵ヲ左ノ如ク服務セルヘシ

左記

上番月日	巡察將校	舍營衛兵
五月二十日	IA	II
五月二十一日	I	III
五月二十二日	II	I
五月二十三日	III	II

五舍營命令嚴ル舍營日直將校ハ左ノ如ク服務スヘシ

左記

二十六日	桐原大尉
二十七日	小林大尉
二十八日	増澤少佐

歩兵第百三十八旅團命令要旨

六川驛鎮附近ニ尚殘敵兵出沒ス

0397



ニ旅團ハ一部ヲ以テ該地ヲ掃蕩セントス、

三歩兵第百十五聯ノ一中隊(機関銃隊一ノ小隊附ス)ハ直テニ現在地

出祭川埠鎮以北永道ニ添テ東西ノ地區ヲ掃蕩シ、時湯渡附近ニ

宿營シラル步兵第百十五聯隊第三天隊(野砲兵第百三聯隊ノ

、掩護ノ任務ヲ有ス)ト協力シ宣興ヨリ長興ニ至ル間、交通線ヲ

保安イラシムヘシ

之カ爲同中隊ハ掃蕩後暫ク川埠鎮ニ駐留シ警備ニ任スヘシ

人馬現況

將校	下士官	兵	計	乘馬	鞍馬	馱馬	計
七	一三	一五四	一七三	一二	四五	七	六四

轉入者 歩兵上等兵 小林 張染五郎

宣興城内ニ於テ宿營ス

ニ第百十四師團、團隊長懇談會ハ出席ノタメ聯隊長午前六

於宣興

時宣興ヲ去リ長興第百十四師團司令部ニテ出席ス

懇談會出席後午後六時宣興到差帰還ス

三在長興神充員ニ旅團長ノ訓示アリ、聯隊長モ一場ノ訓示ヲ與ヘ激励ス

歩二五〇作命第 號

歩兵第百五十聯隊命令

一師團ハ明子八日ヨリ行動ヲ起シ新配備ニ移リ警備ニ就ク

旅團ハ(在宣興部隊又)ハ明子八日ヨリ行動ヲ起シ第一四師作命

第六七號別紙第ニ要圖(要圖ハ別ニ示ス)ニ示ス新配備ニ就ク

二聯隊ハ一部ヲ宣興ニ残置シ主力ハ明子八日宣興出發新配備ニ

移ルルメ先ハ大港附近ニ向ヒ前進セントス

三第五中隊ハ依然宣興ニ位置シ同地ニ在ル第四野戦軍病院及師

團糧秣交附所ノ掩護ヲ任ズヘシ

其細部ニ関シ別ニ示ス

四、第三中隊ハ小六兵中隊トナリ明早自午前九時迄ニ宣興西南角橋梁ヲ先頭ニ宣興長興道ニ集合ス

本隊ト距離四百メートル

五、爾余ノ部隊ハ本隊トナリ行軍序列ニ從ヒ同時迄ニ尖兵中隊ノ後方ニ途上總隊ニ集合スヘシ

R I II III ITL IA RIA RMG P 大行李 第十一中隊

六、軍旗誘導ヲ々々第四中隊ヨリ將校ノ指揮スル一々分隊ヲ同日午前八時三十分迄ニ聯隊本部ニ服務スヘシ

七、明早日該營トシテ左記人員ヲ午前八時迄ニ宣興西南本道ニ集合シ中條中尉ノ指示ヲ受クヘシ

左記

各本部ヨリ下士官六 兵ニ宛

各中隊ヨリ下士官一 兵ニ宛

八、行動間ノ糧秣ハ在宣興糧秣交付所ヨリ補充ヲ受クルモノトス

九、余八午前九時本隊ノ先頭ニ在リ

聯隊長 山本中佐

本日ノ人馬現況

將校	下士官	兵	計	乘馬	騾馬	馱馬	計
七	一一	一五五	一七四	一一	四五	七	六四

退院者 特務兵 熊谷正男 宣興野戦病院ヨリ

五月五日

雪

宣興ヨリ

大港附近

前田村ニ

至ル

前進ス

一、午後四時大港附近前田村ニ到達シ宿營ス

一、兵火ニ民家焼カレ宿舎甚々欠乏困難ス火災予防注意尚不徹底ナリ

一、他部隊ノ行軍ハ依然ハ軍規ニシテ兵三々五々背囊ヲ車、牛、馬ニツケ  
隨意ニ路傍ニ休憩或ハ食草ニ行軍ヲ妨害スルモノアリ

歩兵第百五十聯隊命令

十一月三十日午後四時  
於前田村

一、聯隊ハ本ニ八日六港附近前田村ニ露営セントス

ニ各隊ハ該營者ノ指示ニ依リ露営スヘシ

三、露営日直將校ハ小林大尉トス

四、露営衛兵ハ本ニ第一中隊ヨリ長以下八名ヲ午後五時迄ニ聯隊本部ニ

差出シ日直將校ノ指示ヲ受クヘシ

五、警戒ハ各隊ニ毎ニ實施スヘシ

六、給養ハ携帶糧秣ニ依ルヘシ

七、明日二十九日行軍ニ因リ左ノ通りトス

一、第六中隊尖兵中隊トシテ午前八時三十分迄ニ本部露営地區入口本道

上南方約五百米ヲ先頭トシ集合スヘシ

本隊トシテ距離約四百米トス

二、爾余ノ部隊ハ本隊トシテ左ノ行軍序列ヲ以テ同時迄ニ先兵ノ後方本

道ニ集合スヘシ

0402

20

凡五五二 I/A RIA 聯大隊六小行李 第四中隊 砲兵中隊

第四中隊 一小隊

心 第七中隊 八軍旗中隊 トス

八明九日 設營ノタメ 本日同様ノ人員ヲ午前七時五分迄ニ聯隊本部 露營

地入口 縣道上ニ差出シ 中條少尉ノ指示ヲ受クヘシ

九余八前田村ニ在リ

聯隊長 山本 中佐

本日ノ入馬現況

將校	下士官	兵	計	乘馬	驍馬	駟馬	計
七	一二	一五五	一七四	一三	四五	七	六四

十月十九日

步兵第百五十聯隊命令

於長興 聯隊本部

一聯隊本部

後備隊 陸軍 歩兵 伍長

関口

義賢 計

一第大隊本部

同

一等兵

原田

精 寺

第天隊本部後備役陸軍歩兵上等兵	山岸	保雄	以下七名
第天隊本部	白井	正章	以下五名
第一中隊	同	兼曹柳澤	虎由 以下三名
第四中隊	同	伍長北原	計男 以下三名
第五中隊	同	伍長酒井	金一 以下二名
第六中隊	同	伍長駒村	利貞 以下三名
第七中隊	同	伍長西村	福男 以下四名
第八中隊	同	伍長木下	徳雄 以下五名
第九中隊	同	伍長稻嶽	稔 以下九名
第十中隊	同	伍長	稻嶽 和喜 好 以下三名
第十一中隊	同	上等兵	野瀨 富雄 以下一名
第機関銃隊	同	一等兵	稻垣 士郎 以下二名
第機関銃隊	同	一等兵	石坂 武則 以下五名
第機関銃隊	同	兼曹	吉田 茂雄 以下三名

歩兵砲中隊 後備役陸軍歩兵上等兵 古畑 庄 三 以下二名

聯隊機園銃隊 同 伍長 矢島 正 善 以下一七名

右者各頭書ノ本部中銃隊ニ編入ヲ命ス (五月二十四日付)

一、第一大隊本部付 陸軍主計中尉 原 睦 次

當分ノ同聯隊本部ニ於テ勤務ヲ命ス

長警作命第參號

長興警備隊命令

於長興警備隊本部  
五月十九日午後八時

一、師團ハ昨午八日以降其行動ヲ開始シ新配備ニ就キマアリ

二、聯隊ハ騎兵一小隊野砲兵一中隊工兵一小隊師團通信隊無線一分隊

衛生隊ニ分テ第一野戰病院ノ一部ヲ配屬セラルハル今師團長

直轄ノ許ニ長興警備隊トナリ一二四師作命甲第六七號ニ

基テ新配備ニ就キ担任ノ區域ヲ警備スルト共ニ敗殘兵ノ掃

蕩隱匿兵器及軍需資材ノ蒐集及戰場掃除ノ破



壞行通路ノ回復並ニ確保(炭鑛鐵道ノ掩護ヲ含ム)ニ任シ併  
 三各警備中隊ハ本ニ九日以降左ノ配備ニ就キ其ノ担任區域内ニ於テ  
 三各警備中隊ハ本ニ九日以降左ノ配備ニ就キ其ノ担任區域内ニ於テ  
 前第ニ項ノ任務ニ服スベシ  
 但シ天平橋警備中隊ハ三十日長興ヲ出發同日中ニ配備ヲ完了スベシ  
 歩兵第百五聯隊第中隊(114)ヲ配屬(ハ新塘口警備中隊ト  
 ナリ新塘口(長興東北八軒)ヲ守備  
 歩兵第百五聯隊第九中隊(114)ニ配屬(爽浦鎮警備中隊  
 トナリ主カラ以テ爽浦鎮ヲ一部ヲ以テ金山(爽浦鎮北方約四軒)ヲ  
 守備ス  
 歩兵第百五聯隊第六中隊(114)ニ配屬(ハ天平橋警備中隊ト  
 ナリ天平橋(長興西南方約二十軒)ヲ守備  
 明ニ以テ各警備隊ニ傳騎ニ騎ヲ配屬ス  
 警備ノ細部ニ関テハ別ニ示ス

四、残余部隊ハ豫備トシ長興ニ位置シ其担任區域ニ於テ別ニ示ス  
後依リ前項ノ任務ニ服スヘシ

五、各部隊ノ警備担任區域ハ各宿營部隊毎ニ實施スヘシ

六、騎兵小隊ハ明三十日各警備中隊ニ傳騎ニ騎ヲ配屬スヘシ

七、通信班長ハ努メテ既設線ヲ利用シ速ニ長興警備隊ト各警備

中隊間ニ通信網ヲ構成スルト俱ニ師團無線分隊ヲ以テ湖州師團

司令部並ニ同地警備司令部ト連絡ニ任スヘシ

八、第三野戦病院(一部)ハ依然長興ニ開設シアルヘシ

九、給養野戦倉庫ノ補給糧秣ニ依ルヘシ

但シ警備中隊ハ補給ハ所屬大隊ニ於テ担任スヘシ

十、長興警備隊司令部ニ在リ

長興警備隊長 山本歩兵中佐

本日ノ人馬現況

七	將校	下士官	矢計	兼馬	鞍馬	駝馬	計
一四				一二	四五	七	六四
一六四							
一八五							

聯隊本部編入者

歩兵伍長

関口 義賢

同 同

馬場 三子男

同 一等兵

岸 榮市郎

同 同

宮 島利一

同 一等兵

依 田松次郎

同 同

康 川正孝

同 同

山 崎壽行

同 二等兵

井 上定男

同 同

伊 藤免熊

同 同

飯 澤久一郎

0408

十二月三十日  
曇天  
於長興

歩兵上等兵増澤徳治 金山衛城ヨリ帰還ス

一、長興警備ニ任ス

警備隊日々命令

十二月三十日午後  
於長興警備隊本部

一、来ル一月一日四方拜ニ付キ同時午後九時ヨリ長興飛行場ニ於テ  
選拜式ヲ舉行ス依テ左ノ通り心得フ可シ

一、各隊ハ同時午前九時迄ニ歩兵第百五十聯隊會田少佐ノ指揮  
ヲ以テ左ノ順序ニ飛行場内ニ東面ヨリ大隊ノ縦隊横隊(大隊  
以外ノ部隊ハ別ニ示ス)ニ集合ス

但シ編成ニ加ハラサルモノハ其ノ隊ノ後方ニ各大隊毎ニ整列スルモノトス  
歩兵第百五十聯隊、騎兵小隊、砲兵中隊、工兵小隊、師團一  
團通信隊ノ無線班、衛生隊、野戦病院ノ集合位置並ニ  
隊形ニ関シテハ現場ニ於テ指示ス

二、歩兵第百五十聯隊第一中隊ハ軍旗中隊トシ同日午前九時十

分遣警備隊本部前ニ服務セルムヘシ 三所要、監視者ヲ指當地ニ殘置スヘシ 四服装ハ軍装ニ一般ニ累綴ヲ佩用スベシ、 車輛並ニ乗駄馬部隊ハ夜走編成トス 長興警備隊日々命令 於 <sup>二月三日午後二時</sup> 長興警備隊本部 一在長興部隊、日課時限ヲ左ノ通り定ム	起床(日朝点呼) 午前七時三十分	診 断 午前十時	會 報 午後二時	日夕点呼 午後八時三十分	二月三十日以降令營勤務員並ニ其他勤務差出レ部隊左ノ如シ	上番日時 將營日換 巡察將校 金管衛兵 飛行場警備 隊(小隊) 軍医 込察	青月吉日 大塚小佐 巡 察 將 校 RMG 飛 行 場 警 備 隊 ( 小 隊 ) 軍 医 込 察	三 日 三 日 A 條 原 大 尉 I/1500 JA Ⅲ Ⅱ Ⅳ Ⅰ 西 部 金 管 地 區 東 部 金 管 地 區
---	------------------	----------	----------	--------------	-----------------------------	---------------------------------------	---	---

一月一日		150	會田少佐	II/150	A	I	II	II	II	II	II
二月一日		150	桐原大尉	II/150	RMG	I	II	II	II	II	II
三月一日		150	小林大尉	I/150	A	I	II	II	II	II	II

備考 東西倉管地区ノ境界ハ北門ヨリ南門ニ通スル道路トス

三、諸勤務ノ交代ハ明三十日以降午後一時トス

四、本三十日上番ヨリ合營衛兵ニ喇叭一名ヲ加フ

五、騎兵小隊、野砲兵中隊、及工兵隊ノ診断ハ衛生隊ニ於テ担任シ其ノ時刻ハ午前十一時トス

本日ノ人馬現況

將校	下士官	兵	計	乘馬	驍馬	駄馬	計
八	一四	一六五	一八七	一二	四五	七	六四

退院者 步兵少尉 小山長 堯湖野戰病院

退院者 付添 歩兵上等兵 長沼忠一

0411

在長興警備隊配備要圖



三月三日  
雨天  
於長興

一長興警備之任ス

一我々聯隊ハ十一日土日杭州灣ニ上陸以來悪戦苦闘ヲ續ケ岸ヲ頑敵ヲ引受ケツモ撃破シ只管南京ニ向テ前進シ遂ニ十一日土日南京城雨花門ヲ攻撃シ激戦ノ結果之ヲ占領ス

此處ニ意義アル昭和十二年モ終ラントス

回顧スルト所ハ概無量アリ

聯隊以下將兵ノ志氣益々旺盛ニシテ次期作戰ヲ準備ス

一谷村舎ハ松飾ヲ施シ夜ハ兵站ヨリ晦日蕎麥配給アリ本部將校會食ヲ催シ懷想談ニ親シム

長興警備命令

一ニ、三ニ、  
於長興警備司令部

一後備歩兵大隊ハ下泗江ニ位置シ其ノ一部ハ大雲寺(長興西南方約七

軒)ニ在リテ長興一廣徳道ノ警備ニ任シアリ

二警備隊ハ兵力ノ配置ノ一部ヲ変更セントス

三天平橋警中隊ハ爾今林城橋警備中隊トナリ主カヲ以テ林城橋(長



興西南方約八村ヲ警備シ前任務ヲ續行スヘシ

特天雲寺警備部隊ト密ニ連絡スルヲ要ス

四余八長興ニ五リ

警備隊司令官 山本歩兵中佐

下達法 印刷配布

歩兵百五十聯隊日々命令<sup>一三三、右七</sup>於長興

一 陸軍歩兵少尉 岡田由男

右者原所屬ニ復故ヲ命ス

二 陸軍主計少尉 林太郎

歩兵第五十聯隊附被免

歩兵第五十聯隊附被仰付 (十月八日付)

警備隊日々命令 一三三、右三於長興警備隊司令官部

一 明一月一日飛行場ニ於ケル遙拜式ハ雨天ノ多ク取止メ

依而各隊毎ニ適宜ノ場ニ於テ施行スヘシ

三明日日遙拜式ノタメ軍旗中隊トシテ歩兵一五〇ノ各大隊ヨリ左記部  
隊ヲ同日午前九時ニテ公園前廣場ニ差出シ聯隊副官ノ指示ヲ受ケ  
ハシ

服装ハ軍装トシ鉄帽及防毒面ヲ除キ畧綴服用トス

左記

一 將校ノ指揮スル一小隊及喇叭手ニ名

五、同右

四 中隊長、將校ノ指揮スル一小隊及喇叭手ニ名

小隊ハ小銃ニ、輕機関銃ニ、分隊編成トシ小隊長以下五十名トス

三 明日一日四方拜ニ付キ同日午前十一時ヨリ警備隊司令部ニ於テ右

長興同相当官ノ祝宴ヲ催ス

依而各隊ハ將校同相当官ニテ警備勤務ニ支障ナキモノハ同日午前

十時五十分迄ニ同所ニ集合スヘシ

服装ハ軍旗ノ軍装ニテ畧綴服用トス

